

寒冷地形談話会通信

2000 年度第 3 号 2000.11.19 発行

事務局：〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学文学部地理学教室内寒冷地形談話会事務局

TEL：03-3296-4545（内線 2808）

E-mail：amaizawa@kisc.meiji.ac.jp

URL：www.comp.metro-u.ac.jp/~pukuun/kanrei/

2000 年度 第 3 号目次

（1）11 月例会のおしらせ

（2）寒冷地形談話会 12 月例会・山岳永久凍土研究グループミーティング合同開催のお知らせ

（3）夏の学校報告

（4）会費納入のお願い

（1）11 月例会のおしらせ

日時：11 月 25 日（土）15：00～

場所：明治大学大学院リバティータワー 19F

119K 教室（エレベーターを降りて正面の部屋）

発表者：小松原 琢（地質調査所環境地質部環境地質研究室）

「地質図作りに関係してみて」

交通機関：

・JR 中央線・総武線で「御茶ノ水」駅（御茶ノ水口）下車

営団地下鉄千代田線，新御茶ノ水駅下車

明大通りを南に 200m ほどで，明治大学リバティータワーになります．

・地下鉄半蔵門線，都営三田線・新宿線，「神保町」駅から徒歩 5 分

会場案内：

明治大学大学院リバティータワー 19F へは直通エレベーターがないため，17F で大学院専用エレベーターに乗り換えていただき，19F で降りていただくことになります．

なお，例会終了後，懇親会をアミにて予定しております．

(2) 寒冷地形談話会 12 月例会・山岳永久凍土研究グループ合同開催のお知らせ

日時：12 月 16 日（土）

場所：国立極地研究所

交通機関：

- ・地下鉄都営三田線「板橋区役所前」駅下車，A1 出口徒歩 10 分
- ・JR 埼京線「板橋」駅下車徒歩 15 分

極地研への行き方はホームページ（<http://www.nipr.ac.jp>）の案内図を参照して下さい．

プログラム等は決まり次第ご連絡いたします．

(3) 夏の学校報告

2000 年度夏の学校を北アルプス笠ヶ岳周辺において，長谷川裕彦さん（明治大・非）を講師としてお迎えして以下の日程でおこないました．参加者は総勢 7 名でした．

日程

8/23（水）：笠新道登山口集合～笠ヶ岳テン場

8/24（水）：笠ヶ岳山頂，打込谷

8/25（木）：笠ヶ岳～抜戸岳～秩父平～下山

オプション

8/26（金）：蒲田川左俣谷

8/27（土）：蒲田川左俣谷

今年度の夏の学校は，笠ヶ岳をベースにしておこなわれ，オプションの左俣谷も含めると全 5 日間の長丁場であったが，天候に恵まれ全て晴天という巡検日和であった．

初日は笠新道登山口に各自集合した後，全員で登山開始というかたちであった．まず，笠ヶ岳へ向かう途中の杓子平圏谷で地形観察をおこなった．ここでは，圏谷内に複数の明瞭なモレーンが観察できた．笠ヶ岳から抜戸岳にかけての主稜線の南東側直下には，新鮮な形態をとどめる笠ヶ岳 IV 期（晩氷期）に対比される圏谷群が並んでおり，杓子平圏谷はそのひとつであるとの説明があった．また，ここでは完新世に入ってから氷河前進がみられた可能性が高いとのことで，完新世の氷河前進について議論が交わされた．

翌日（24 日）は早朝から笠ヶ岳山頂に登り，そこから東側眼下に見える播隆平圏谷の地形観察をおこない，ここでも圏谷内に明瞭なモレーンが確認できた．また，これら圏谷の下流部の穴毛谷にも非常に新鮮な氷河地形が見られ，そこでは笠ヶ岳 IV～V 期にかけて雪崩涵養型の氷河が存在していたとの説明があった．また，笠ヶ岳 I 期（最終氷期前半亜氷期）には笠ヶ岳山頂の南方約 1.7km に位置する雷鳥岩から流下する氷河と合流して，標高 1150m 付近まで氷河が拡大していたとのことである．打込谷では打込谷二俣に位置する中央堆石の大露頭を観察した．ここでは河床から尾根頂部までの比高の 75m のうち，上部約 60m に青灰色の砂質シルトをマトリックスとし，最大礫径 3m の巨礫を含む無層理・無淘汰の堆

積物が露出していた。また、その表層には層厚 70~80cm の亜角礫からなるソリフラクション堆積物がティルを覆っており、このソリフラクション堆積物とティルとの境界から AT(始良 Tn 火山灰, 2.2~2.5 万年前) が確認されたとのこと。ところが、露頭自体が古くなっていたため残念ながら AT を確認することはできなかった。

最終日は笠ヶ岳キャンプ場を後にし、抜戸岳を通り秩父平を観察した。この秩父平は主稜線の北側に位置し標高 2500m 前後の小起伏面となっており、日独沢が北西方向に流下している。一方の主稜線の南東側では、秩父沢の激しい谷頭侵食により極めて急峻である。秩父平周辺の氷河地形について最初に報告したシュビント(1936)は、従来日独沢流域にあった秩父平圈谷が後氷期の秩父沢の谷頭侵食によって秩父沢に争奪されたと解釈し、その後さまざま議論を呼んだ(今村, 1940; 式, 1970; 五百沢, 1979)。後に長谷川(1993)によってシュビントの解釈が裏付けられている。今回の巡検では、果たしてそうなのか? という解釈の違いから、長谷川さん VS 青山さんの一対一の熱い議論が展開されたが、平行線のまま時間切れという残念な結果に終わってしまった。その後、羊背岩である日独岩を観察して、全員無事下山した。

オプションの蒲田川左俣谷ではさらに 3 名の参加者があり、二日間にわたって本谷に見られる氷河堆積物の観察をおこなった。さまざまな分野の方々が集まったため、露頭の下では氷河堆積物と土石流堆積物の層相の違い、堆積物の解釈等について議論・意見交換が活発におこなわれた。

天候にも恵まれ、日本の山岳氷河の代表的なフィールドの一つである笠ヶ岳周辺、および今後の日本の氷河作用を議論していく上で非常に重要なキーとなる左俣谷を案内していただき、非常に有意義な巡検であった。お忙しい中、講師をお引き受けいただいた長谷川さん、ありがとうございました。

参考文献

- 五百沢智也(1979):『鳥瞰図譜・日本アルプス』, 講談社, 190p.
今村学郎(1940)『日本アルプスと氷期の氷河』岩波書店, 162p.
式 正英(1970): 高山地域の河川上流域における堆積段丘の種類と気候段丘の類別.
研究業績報告, 2, 8-21.
シュビント, M.(1936): 笠ヶ岳山脈と抜戸岳付近の羊背岩, 地理学評論, 12, 438-445.
長谷川裕彦(1993): 北アルプス南西部, 秩父平周辺の氷河地形発達史.
駿台史学, No. 87, 94-114.

(4) 会費納入のお願い

今年度の会費をまだ納入されていない方は、納入をおねがいたします。3 年間未納の方は通信の発行を停止いたします。なお、会費は郵便局からの振込みでお願いいたします。

寒冷地形 00100 - 9 - 171342 1,500/年 です

今年度も会費の納入率が低いので、よろしくお願いいたします。